

15:16 兵士たちはイエスを、邸宅、すなわち総督官邸の中に連れて行き、全部隊を呼び集めた。
15:17 そしてイエスに紫の衣を着せ、いばらの冠を編んでかぶらせ、15:18 それから、「ユダヤ人の王さま。ばんざい」と叫んであいさつをし始めた。15:19 また、葦の棒でイエスの頭をたたいたり、つばきをかけたり、ひざまずいて拝んだりしていた。15:20 彼らはイエスを嘲弄したあげく、その紫の衣を脱がせて、もとの着物をイエスに着せた。それから、イエスを十字架につけるために連れ出した。15:21 そこへ、アレキサンデルとルポスとの父で、シモンというクレネ人が、いなかから出て来て通りかかったので、彼らはイエスの十字架を、むりやりに彼に背負わせた。15:22 そして、彼らはイエスをゴルゴタの場所(訳すと、「どくろ」の場所)へ連れて行った。15:23 そして彼らは、没薬を混ぜたぶどう酒をイエスに与えようとしたが、イエスはお飲みにならなかった。15:24 それから、彼らは、イエスを十字架につけた。そして、だれが何を取るかをくじ引きで決めたいうえで、イエスの着物を分けた。15:25 彼らがイエスを十字架につけたのは、午前九時であった。15:26 イエスの罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。15:27 また彼らは、イエスとともにふたりの強盗を、ひとりは右に、ひとりは左に、十字架につけた。15:29 道を行く人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おお、神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。15:30 十字架から降りて来て、自分を救ってみろ。」15:31 また、祭司長たちも同じように、律法学者たちといっしょになって、イエスをあざけて言った。「他人は救ったが、自分は救えない。15:32 キリスト、イスラエルの王さま。今、十字架から降りてもらおうか。われわれは、それを見たら信じるから。」また、イエスといっしょに十字架につけられた者たちもイエスをののしった。15:33 さて、十二時になったとき、全地が暗くなって、午後三時まで続いた。15:34 そして、三時に、イエスは大声で、「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」と叫ばれた。それは訳すと「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。15:35 そばに立っていた幾人かが、これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる」と言った。15:36 すると、ひとりが走って行って、海綿に酸いぶどう酒を含ませ、それを葦の棒につけて、イエスに飲ませようとしながら言った。「エリヤがやって来て、彼を降ろすかどうか、私たちは見ることにしよう。」15:37 それから、イエスは大声をあげて息を引き取られた。15:38 神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。15:39 イエスの正面に立っていた百人隊長は、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「この方はまことに神の子であった」と言った。15:40 また、遠くのほうから見ていた女たちもいた。その中にマグダラのマリヤと、小ヤコブとヨセの母マリヤと、またサロメもいた。15:41 イエスがガリラヤにおられたとき、いつもつき従って仕えていた女たちである。このほかに、イエスといっしょにエルサレムに上って来た女たちがたくさんいた。15:42 すっかり夕方になった。その日は備えの日、すなわち安息日の前日であったので、15:43 アリマタヤのヨセフは、思い切ってピラトのところに行き、イエスのからだの下げ渡しを願った。ヨセフは有力な議員であり、みずからも神の国を待ち望んでいた人であった。15:44 ピラトは、イエスがもう死んだのかと驚いて、百人隊長を呼び出し、イエスがすでに死んでしまったかどうかを問いただした。15:45 そして、百人隊長からそうと確かめてから、イエスのからだをヨセフに与えた。15:46 そこで、ヨセフは亜麻布を買い、イエスを取り降ろしてその亜麻布に包み、岩を掘って造った墓に納めた。墓の入口には石をころがしかけておいた。15:47 マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスの納められる所をよく見ていた。

16:1 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとは、イエスに油を塗りに行こうと思い、香料を買った。16:2 そして、週の初めの日の早朝、日が上がったとき、墓に着いた。16:3 彼女たちは、「墓の入口からあの石をころがしてくれる人が、だれかいるでしょうか」とみなで話し合っていた。16:4 ところが、目を上げて見ると、あれほど大きな石だったので、その石がすでにころがしてあった。16:5 それで、墓の中に入ったところ、真っ白な長い衣をまとった青年が右側にすわっているのが見えた。彼女たちは驚いた。16:6 青年は言った。「驚いてはいけません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められた

所です。16:7 ですから行って、お弟子たちとペテロに、『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます』とそう言いなさい。」 16:8 女たちは、墓を出て、そこから逃げ去った。すっかり震え上がって、気も転倒していたからである。そしてだれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。

はじめに

先週、マルコ 14 : 42 までの学びを終えました。

今日の聖書個所の学びに入る前に、マルコ 14 : 43-15 : 15 で起こった出来事を把握しておく必要があります。

イエスはゲツセマネで苦悩の祈りを三度ささげた後、弟子のひとりユダに裏切られ、捕えられました。

捕えにやってきたのは、祭司長、律法学者、長老たちを含む大勢の人々です。

彼らは、剣や木の棒を持ってきました。

弟子のひとりがこれに抵抗しようと剣を抜いて、大祭司のしもべの耳を切り落としました。

しかしイエスが群衆に向かって問いかけられると、弟子たちは全員逃げてしまい、イエスの味方として残る者は誰一人いませんでした。

おそらくマルコと思われるひとりの弟子は、イエスについて行こうとしましたが、群衆が彼も捕えようとする、来ていた服を脱ぎ捨てて裸で逃げました。

こうしてイエスは、ユダヤの法廷へと連行されました。

ペテロは、なんとか遠くからついていきました。

誰にも見つからずに役人たちの中に紛れ込むことができたのです。

祭司長たちとユダヤの全議会は、イエスを死刑にするために、証人を探しました。

けれども、偽証した人々の話に矛盾がありました。

そこで大祭司は、「あなたはユダヤの救い主キリストですか」とイエスに尋ねました。

イエスは、「わたしはそれです」とお答えになりました。

マルコ 14:62 そこでイエスは言われた。「わたしは、それです。人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るはずです。」

イエスのこの発言は、じゅうぶんに冒瀆罪に当たると大祭司は判断しました。

そこにいた全員も大祭司に賛成し、イエスは彼らによってひどい目に遭わされました。

庭にいたペテロは、イエスを知らないと言いました。

イエスは、こうなることをあらかじめペテロに伝えておられました。にわとりが2度鳴いたとき、ペテロはそのことを思い出し、激しく泣きました。

朝になると、イエスは縛られてローマ帝国の総督ピラトに引き渡されました。

ピラトはイエスに、「あなたはユダヤ人の王ですか」と尋ね、イエスは「そのとおりです」とお答えになりました。

祭司長たちがイエスに対してあれこれ訴えましたが、いいかげんな訴えにイエスはお答えになりませんでした。

ピラトは、ユダヤ人の過越しに囚人をひとり赦免する慣習を利用してイエスを釈放しようと考えました。

10 節には、祭司長たちがイエスをねたんでいるだけであることにピラトは気づいていたとあります。

ピラトはイエスを釈放することを申し出ましたが、祭司長たちは群衆をあおって、極悪犯罪者のバラバの釈放を求めさせました。

こうしてイエスは、十字架にかけられるために連れていかれました。

これが、先週の個所から今週の個所の間で起こったことです。

今日の個所は、3 つに分けてお話しします。

1. 王の殺害 (15 : 16-41)
2. 王の埋葬 (15 : 42-47)

3. 王の復活 (16 : 1-8)

1 王の殺害 (15 : 16-41)

マルコの福音書のこの部分は、旧約聖書の成就であると同時に、マルコがこれまでの個所でイエスの言葉として記録した内容の成就でもあります。

イザヤ書 53 章

53:1 私たちの聞いたことを、だれが信じたか。【主】の御腕は、だれに現れたのか。 53:2 彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。 53:3 彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。 53:4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。 53:5 しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。 53:6 私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かって行った。しかし、【主】は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。 53:7 彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。 53:8 しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。 53:9 彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかったが。 53:10 しかし、彼を砕いて、痛めることは【主】のみこころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら、彼は末長く、子孫を見ることができ、【主】のみこころは彼によって成し遂げられる。 53:11 彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう。 53:12 それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる。彼が自分のいのちを死に明け渡し、そむいた人たちとともに数えられたからである。彼は多くの人の罪を負い、そむいた人たちのためにとりなしをする。

今日ここでは読みませんが、詩篇 22 篇もイエスとその死の状況に関する預言です。ご自身で後ほどお読みください。

これらの預言は、この個所に記された出来事が起こる 800 年も前に書かれたものです。このことから、神の御子が殺された出来事も神の御手の中で起こった事であるのは明らかです。

イエスご自身も、これらのできごとについて、マルコ 8 : 31、9 : 31、10 : 33 であらかじめ告げておられます。

16-41 節には、おもに 3 つのテーマが織り込まれています。

まず、イエスが「ユダヤ人の王」であることです。

15 章では 6 度、イエスがユダヤ人の王と呼ばれています。(2,9,12,18,26,32 節)

16-20 節では、ローマの兵士がふざけてイエスを「ユダヤ人の王」として扱います。

17 節には、彼らがイエスに紫の衣を着せたとあります。

紫は、王たちが身につける王族の色とされていました。

それから、彼らはいばらの冠を作って、イエスの頭にかぶらせました。

当時の王たちは、いばらの冠ではなく、金の冠をかぶっていました。

彼らは、ふざけてイエスの前にひざまずいたり拝んだりしました。

そのような形ではあっても、イエスはユダヤ人の王とみなされたのです。

さらに、26 節は、イエスの罪状書きに「ユダヤ人の王」と書いてあったと語ります。

ローマ兵たちはばかにしていましたが、ローマの総督は、イエスが特別な存在であることを認めました。

総督は、その罪状書きをイエスの頭上につけるよう命じました。

イエスがユダヤ人の王である 3 つめの根拠は、39 節にある「この方はまことに神の子であった」というローマの百人隊長の言葉に表されています。
この「神の子」という言葉は、マルコの福音書で用いられた王位の呼称です。
ローマの兵士さえも、イエスがユダヤ人の王の王であることを認めたわけです。

適用

では、なぜ神はここまでして、イエスが「ユダヤ人の王」として死なれるようになさったのでしょうか。

神はご自身の主権によって、異邦人であるローマ帝国の支配者やローマ兵、そしてイエスを神の子だと悟ったというローマ兵の高官の発言を用い、この点を明確になさいました。
イエスが「ユダヤ人の王」として死ななければならなかった理由をここでひとつお話ししましょう。

それは、イエスが今も「ユダヤ人の王」であられるからです。

神は、ユダヤ人に関する預言を今現在、成就しておられる最中です。

どのような預言かを理解する上での助けとして、メッセージの最後のページに付録をつけていますので、ご自身でその預言のひとつひとつをご覧ください。

また、ユダヤ民族に関する預言でまだ成就していないものがたくさんあります。

イエスに関する預言は、イエスの再臨のときにユダヤ人の王としてイエスが君臨されることを語ります。

これも付録に入れていますので、興味のある方は調べてみてください。

さらに、ローマ 11 章もあります。

この個所でパウロは、神のいつくしみと厳しさについて教えています。

異邦人を救われる神のいつくしみは、現在進行形です。

神に反抗するイスラエルの民を断ち切るのは神の厳しさです。

異邦人は今特権を得ているからと言って誇るべきではありません。神は、私たちをも断ち切ることがおできになります。私たちは今、異邦人としてつぎ合わされているだけなのです。
イエスの再臨が近くなり、今の世が終わりに近づくと、異邦人の国々は神のみことばと神の御子を拒絶する世界的な連合に加わります。

初期の動きはすでに、イスラム教国やその同盟国にみられます。

ですから、私たちがキリストを信じるユダヤ人信徒でなくても、イエスは私たちの王であられます。

イエスは、今この世での私たちの人生の主として支配するお方でなくてはなりません。

お尋ねします。イエスはあなたの王でしょうか。今、あなたの心と思いをイエスは支配しておられますか。

次にこの個所で学ぶべきことは、イエスが私たちの身代わりに神の裁きを受けてくださったことです。

マルコ 15 : 33-34

15:33 さて、十二時になったとき、全地が暗くなって、午後三時まで続いた。 15:34 そして、三時に、イエスは大声で、「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」と叫ばれた。それは訳すと「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

イエスは、十字架上で 7 つの大切なことをおっしゃいました。

その中でも、マルコはもっとも大切だと感じたことに焦点を当てています。

それによって、イエスが十字架にかかれたことで起こった一番重要なことは、人類の罪に対する神の裁きだと教えるためです。

イエスは、私たちが自らの罪のために受けるべき罰を負ってくださいました。

パウロは、コリント第二 5 : 21 で次のように語ります。

コリント第二 5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。

私たちは、イエスが十字架上でなされた御業を理解するまでは、神の愛をしっかりと理解することはできないと思います。

このことについてわかりやすく教えてくれる話があります。

それは、米国のある男性が、祝日に息子を連れて仕事に出かけたお話です。

彼は、可動橋の操縦をする仕事に就いていました。

列車が近づいてくると、橋を下げて列車が通れるようにします。

ある暑い夏の日、この男性が高い場所にある操縦室で可動橋の操縦をしている間、彼の息子は川辺で遊んでいました。

男性がゆっくりと可動橋を下ろし始めたとき、橋の可動部分に服が引っかかって身動きできないでいる息子の姿が目に入りました。

男性は選択を迫られました。

橋を上げて息子の命を救うか、そのまま橋を下して、列車に乗っている人々の命を救うかという選択です。

あまりにもむずかしい選択です。しかも、ほんの数秒で決断しなければなりません。

息子を犠牲にするか、列車に乗る大勢の乗客を死なせるかのどちらかです。

男性は目をつぶり、レバーを引いて橋を下げました。

息子は即死でした。けれども、そのおかげで列車の乗客は全員無事でした。

この話の悲しいところは、父親が息子を亡くしたことで、列車の乗客の命を救うために大きな犠牲が払われたことを乗客たち自身がまったく知らないことです。

クリスチャンの私たちは、父なる神がどれほどの犠牲を払って私たちのたましいを永遠に救ってくださったのかを知らなければなりません。神の御子イエス・キリストに神の御怒りが注がれたことが、その犠牲です。

この個所で学ぶべき 3 つめのことは、イエスの死に力があることです。

マルコは、十字架上の神の御業の力を示す 3 つの事柄を挙げています。

ひとつめは 37 節です。そこには、イエスが大声を上げて息を引き取られたとあります。

私は医者ではありませんが、死を目前にした人々といたことは何度もあります。人はほぼ最期まで耳は聞こえているそうです。

十字架上で死なれる直前には、イエスに話す力はもうなかったでしょう。

ですから、大声を上げたというのは自然を超越した出来事、つまり奇跡です。

百人隊長はこの様子を見て、イエスが確かに神の子であったと確信したわけです。（39 節）

ヨハネの福音書には、イエスが「完了した」とおっしゃったとあります。（ヨハネ 19 : 30）

ギリシャ語学者によると、「息を引き取られた」と訳された個所は、意図的な死を示します。

つまり、神の目的がすべて達成されたので、イエスの肉体は死ぬ時を迎えたということです。イエスの死に力があることを示すふたつめの事柄は 38 節です。

15:38 神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。

ユダヤ教の神殿には、約 10cm の厚みのある幕があります。

その幕は、聖所と至聖所を分けています。

至聖所には、人々の罪の贖いをするために年に一度大祭司だけが入ることができました。

神殿の幕がふたつに裂けたことをとおして神が示しておられたのは、いつも神のご臨在の中にいる道をイエスの死が開いてくれたことです。

これは、ユダヤ人にとって驚くべきことだったでしょう。

彼らは、幕屋から始まって神殿へと約 1,300 年間もいけにえの制度を順守してきました。

神は、新しい契約を始められたことを示しておられました。

罪の赦しはもはや傷のない雄羊の血によって得るものではなくなりました。人々の罪を取り去る神の小羊であるイエス・キリストを信じることで罪は赦されるのです。（ヨハネ 1 : 29）

2. 王の埋葬 (42-47 節)

ここで、ヨセフという人が登場します。彼は、アリマタヤの出身です。彼は、神の国を待ち望む、有力な議員でした。裕福な人で、高価な墓を買っていたようです。その墓は、岩をくりぬいたものでした。これは時間のかかる作業ですから、ずいぶん高価だったでしょう。

イスラエル旅行の参加者は、岩をくりぬいた墓を見て、その中に入ることもできます。エルサレムにある岩をくりぬいた墓が、イエスの遺体の埋葬された墓である可能性を示す多くの根拠が聖書にあります。

ピラトはイエスの体がすでに死んでしばらく経っていることを百人隊長に確認しました。マルコは、マグダラのマリヤとヨセの母マリヤがイエスの埋葬された場所を見ていたと記します。

ではなぜ、王イエスの埋葬が重要なのでしょうか。イエスの復活を信じるには、イエスが実際に死んだことを信じなければなりません。当時の人々にとって、イエスは死なずに十字架から降ろされて、回復したと言うのは簡単でした。ですから、埋葬が重要なのです。また、神の国を待ち望んでいたヨセフというユダヤ人は、イエスの遺体を埋葬する必要があると感じました。ヨセフは地域の有力者ですから、イエスが確かに死んで埋葬されたという事実の証人に適しています。

3. 王の復活 (16 : 1-8)

新約聖書の初期の写本には、マルコ 16 章に 9-19 節が含まれていません。しかし、その部分を除くと、マルコの福音書はずいぶん唐突な終わり方です。イエス・キリストの復活については、他の福音書に記された話がありますし、新約聖書の使徒の働きから黙示録までの教えにも、イエスの復活に関する教えや情報が多く含まれています。この最後の箇所には、イエスの復活に関する聖書の教えと矛盾するところはありませんが、従来のマルコの文章スタイルと異なっています。ですから、今日は学びに含めないことにします。それに、毒を飲んだり毒蛇をさわったりしてもいいと OIC の牧師が言った、と周囲の人に言わないうでいただきたいので、やめておきます。

マルコが確かに記しているのは、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメがイエスの遺体の置かれた墓に行ったことです。彼女たちは、墓の入口をふさぐために置かれていた大きな石が動かしてあるのを見つけました。墓に入ってみると、白くて長い衣を着た青年が右側に座っていました。彼女らは怖くなりました。けれども青年は言いました。「驚いてはいけません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあなたの方の納められた所です。ですから行って、お弟子たちとペテロに、『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます』とそう言いなさい。」

3 人はイエスの復活を信じました。見たことによってではありません。むしろ、見なかったことによって、そして御使いの言葉によって信じました。

イエスの遺体は見当たらなかったため、御使いの言葉を信じました。
神のことばが御使いをとおして3人に与えられ、彼女らは信じました。

適用

イエス・キリストのからだの復活はキリスト教信仰の根幹です。
教祖の復活を認めることを土台とする宗教は他にありません。
使徒たちの宣教の働きにおいて主要な役割を果たしていることから、この教えの重要性は明らかです。

(使徒 2: 24, 32 3: 15 4: 10, 5: 30, 10: 40, 13: 30, 34, 17: 31)

イエス・キリストの復活を信じるのが、初代教会の設立につながりました。それが現代へと受け継がれています。

イエスは、ご自身の復活を重視され、復活された後40日間地上にとどまられました。
そして、500人の人々の前に現れるなど、復活を示す数々の動かぬ証拠を残されました。
イエスは、ご自身の教えが真理であることの証明として、繰り返し復活について語られました。

マタイ 12 : 39-40

12:39 しかし、イエスは答えて言われた。「悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。だが預言者ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。

12:40 ヨナは三日三晩大魚の腹の中にいましたが、同様に、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。

ヨハネ 2 : 20-22

2:20 そこで、ユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てるのに四十六年かかりました。あなたはそれを、三日で建てるのですか。」 2:21 しかし、イエスはご自分のからだの神殿のことを言われたのである。 2:22 それで、イエスが死人の中からよみがえられたとき、弟子たちは、イエスがこのように言われたことを思い起こして、聖書とイエスが言われたことばとを信じた。

さて、選ぶのはあなたです。

クリスチャンなら、今日は大いに祝える日です。

イエスは、私たちの罪のために死んでくださり、私たちに未来と希望を与えるために死からよみがえってくださいました。

私たちには、天国と新しい地に場所が確実に備えられています。

クリスチャンでないなら、罪の赦しを得られる望みはありません。

今の人生がすべてであり、死んだらイエスによって裁かれます。

けれども、よい知らせがあります。それは、今日罪の赦しを得ることができるという知らせです。そして、死後の未来に希望を持てるという知らせです。

どうか、今日の礼拝後ここに残って誰かといっしょに祈ってください。

.....

イースター礼拝メッセージ付録

ユダヤ民族に関する、成就に向かって現在進行中の預言

- 1 イザヤ書 11: 11-12 — この預言の成就是 20 世紀に始まりました。
- 2 エゼキエル書 37: 21-22. — 1948 年 5 月 14 日に成就。
- 3 ゼカリヤ書 8: 4-8. — 1967 年 6 月 7 日成就。
- 4 エゼキエル書 36: 34-35 — この預言は、20 世紀から現在に至るまで成就しつつあります。
- 5 ゼパニヤ書 3: 9 — ヘブル語は死語でしたがよみがえりました。これは 19~20 世紀に始まり、今も継続中です。
- 6 ゼカリヤ書 12: 1-3 — 現在成就しつつあります。

未来に成就する預言

1. イスラエルがアラブ連合を打ち負かす。 — ゼカリヤ書 12: 6.
2. イスラエルは、豊かで安全に暮らす。 — エゼキエル書 38: 11.
3. ロシアが率いるおもにイスラム教国の連合軍がイスラエルに侵攻する。 — エゼキエル書 38: 1-7.
4. ロシアの率いる軍が神によって滅ぼされる。 — エゼキエル書 38: v. 18-23、エゼキエル書 39: 1-8.
5. 反キリストが戻ってきて、イスラエルに安全をもたらし、神殿を再建する。 — ダニエル書 9: 27.
6. 3 日半後 (3 年半後という解釈もある)、反キリストとの盟約が破られる。 — ダニエル書 9: 27, マタイ 24: 15-18.、テサロニケ第二 2: 3-4.
7. ユダヤ人は反キリストを退け、反キリストはユダヤと戦う。ユダヤ人の 3 分の 2 が死ぬ。 — 黙示録 12: 13-17, ゼカリヤ書 13: 8-9.
8. 患難時代の終わりに、ユダヤ人が神に立ち返り、世界第一の国民となる。神は、ユダヤ人の残された者たちを祝福される。 — ゼカリヤ書 12: v. 10, ローマ 9: v. 27-28, ローマ 11: v. 25-27, 申命記 30: v.1-9, イザヤ書 2: v. 1-4, M ミカ書 4: v. 1-7, イザヤ書 60: v. 1-22, ゼカリヤ書 8: v. 22-23.